# 諸藝迷所圖會

全

913.5
ゼ
2

# 善惡道中記第二編

# 善惡迷所圖會 全

頂恩堂版



曩ハ善惡道中記ヽ題して人間一世の盛衰を旅中の趣ハなぞらへ戯作せり。ハ本ところハ宝暦六年丙子年の印本。善惡道中獨案内ヽ題せり。飛雄亭の著作ハ堺屋豐芥子所藏より世ハ大ハ行ハるゝして。天明年中桃栗山人林發齋古文斎馮馬大通獨案内ヽ題青楼通客の趣を述て。本文の小冊ハ絵圖一枚を添ふ。其ハ載飛雄亭の作を摸擬せ。夫より寛政年間山東京傳悟道獨案内ヽ題し。或ハ善惡名所圖會ヽ号。基所宝暦の善惡獨案内の趣ハ微へり。先哲の刎案至ヽ盡せり。今將糟粕を謀て補綴せハ幸ハ時好ハ称ひ。販元不斗利を得ヽ是よりして書肆ハ後其の討求ハ。然ヽども僕素より戯作を業ヽせび。筆硯煩多ハ故を以ヽ。太年再び稿を脱せも。猶後輯の需頻なるハ。許諾ヽ

尽に葉にしるす。已事をひめ今歳初春。新に硯を發啓好る故に拙き筆に稍責を塞ぎ。従来嬰児の為に勧善懲悪の端をあらん欲と。善悪迷所圖會と題して。梓に嗣支とハなりぬ前編と倶に高評を給ゑ。書肆の僥倖あらんとい支と。爰も名所の古跡と聞え。晋子其角が鄰なる。萩生の井戸に遊りに す免れ。

維時弘化二年
歳在乙巳春
稿成
同三年丙午春發兌

江戸楓川の市隱

一筆菴主人戲誌

悟道迷所
日河

# 悟道迷道所之全圖

有月

福禄道
宝の山
長寿
和合
側隠
高貴
分と守

中銭道
子孫
陰徳
貧乏のまゝ不幸と成
知足
生財

経濟道
質素
倹約
奢侈
悟氣乃

悟道
智恵の海
懶惰知
知命
質朴

人道
慈悲
陽報
正直
正路
天命
立身

公道
出世
義理

三教道
道徳
徳行
神儒仏

人情

女島
歓楽
栄曜
栄花
色の道
後悔道
跡の祭
欠落
散財
火災
困窮
欲通
氣隨
不義
好臭皆道
我侭
邊愁皆道
不幸
短命
病難
欲の海
不孝
山の神
祠
非道
大山
師
要皆道
無理
不人情迷所
強欲
筆要道
利欲
悟
晴
煩悩
懶惰
疲傷
無休

仁義
礼有
信
忠
孝
五常道
貞節
離縁
大酒
喜怒皆道
口論

悟喜乃問皆道唐桟胴筆要道難皆働恭隠同妻戒道偏禄道

外小一統録輯余集

国恩山豊捻人舎 神社 海岸通り一の名勝なり 嘗て小人の風俗素撲淳厚なりて者慕を好む稼穡を力尚古の風を失ふ風土南和平にして穀成熟人民富饒なりて海波穏小幸に風風辨禱遊びて松小常盤の色を更び楠小紫桐の香を重び竹小節操の程を死に緑一毫移る辨遊して弟子多人限と知ぶ抑この地小人世界一の所にして万物育生し山水日月の神霊宿りて忠恕の海深くして聖賢の道を学ぶ件来の士を接待して善く神祇祭祀を故実小依然の道筋正直正路なり聞きる道なり孟子の性善なりと悪道小入ぶる教と為せり荀子の性悪なりと善小入る教と為べし

# 子故の迷所

恵瘡峠
彩珍山
あきもり山
稱のりん堂
食ひ杉
そもと堂
あまの天神
子ろう堂
おこそかの跡

すそと峠
れんぬ山
あつの関
そー井
子めのやま

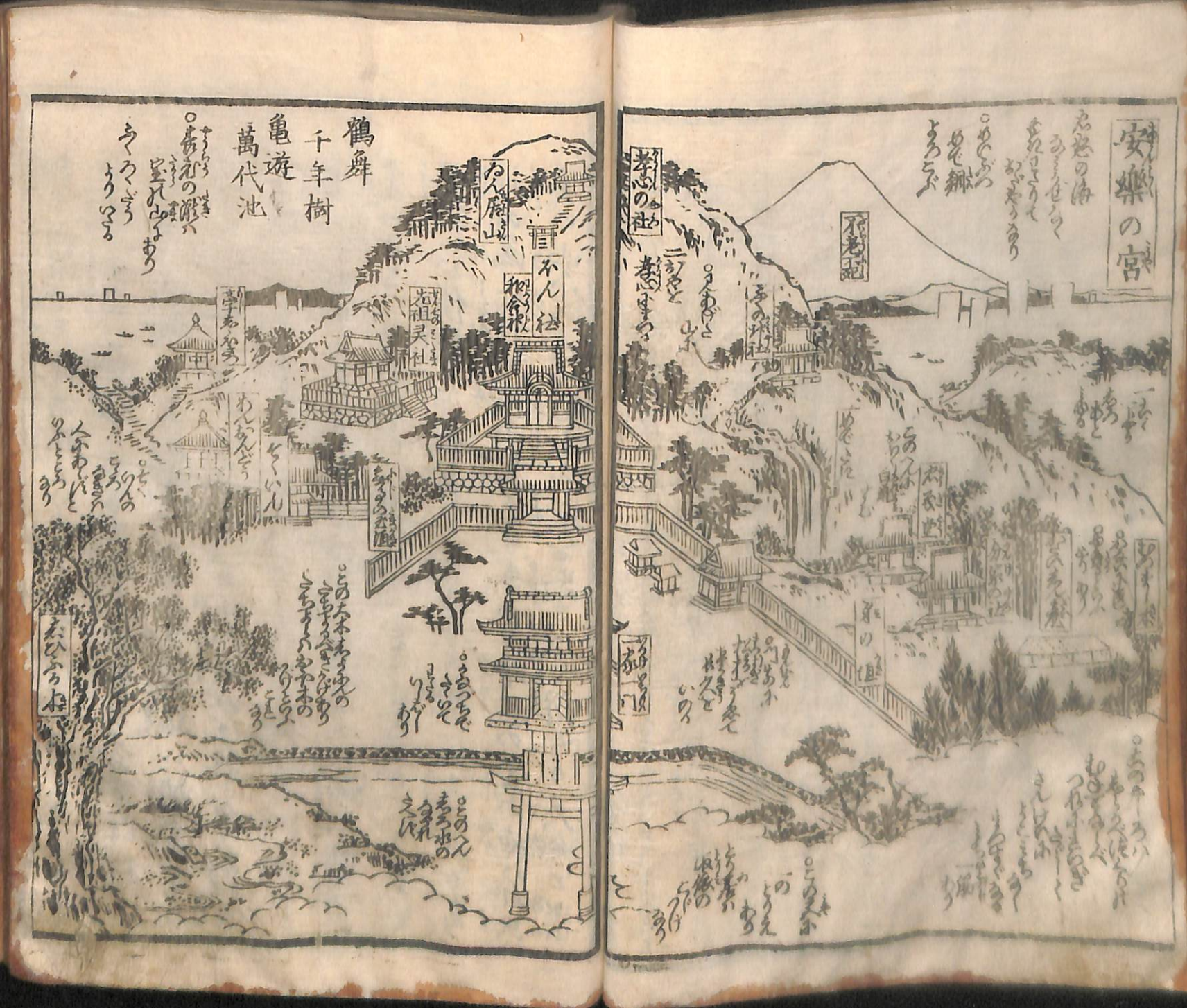
泰平山安樂の身哉　身哉　人道の本衢なり　人道の道より貴賤の為に入て之通
地面有徳天神　天神は有る無る子息人と成て兄弟おわく
牛馬共に皆文くに物のひ為に人のよろこぶ史に為に殺生なきあ
の人性質素にして忠孝の道を守り仮にも無を願ふ
質素倹約を旨とし上を敬ひ下を憐む慈悲の心深く
ふて之を所の動に怠なく子孫長久の繁栄を祈る
親族の未社に善悪を論ひ善を奨め悪を勧ふ
故に天理に順ふ人徳厚き神者　霊社　霊宝

## 夫婦石

夫婦石は泰平山の麓にあり相伝へいふ昔ある所に夫婦の
農民あり常に貧しきを歎て妻の心変なるもの夫は妻を
妻は夫を怨ひかづきて心に耕作の勤怠なく二男二女をまうけ
その養育孟母の教きまりけるにあらざるなり篤実質朴にして孝
行に事けるより寒暑を絶り親は妻は程を厭時雨
にとらぬ田畑耕一丹誠に怠なく夏の炎暑を凌ぎ冬の寒
樂を夕新秋の下涼男は妻は二柳と蒔食成ることを
是を我天より授る宝貴とし欲に心けるその間紙漉村に
なるべき皆深谷に小あるとたまく漂漫の心あるものは巨岩止
此この故に夫婦の形勢を石に形人古跡を残せるぞ

## 高運山

之教道より福祿道の安の山人の道なり平人常に


安樂の宮
孝心の社
不老泉
鶴舞
千年樹
亀遊
萬代池
八幡宮
祖霊社

世渡の迷所
高軍山
出世の滝
立身の泉
家の面木
鬼の見花盛
鬼長谷
みつけ山
金の要
家業貴
世渡の橋
うせ木
三尺ゑび岩

不經濟散財寺　東ニ用由　算用道の技道ニかゝり
本尊借銭檀寐者迦葉　モウ兵死損者一統胶倒の御作
身代貧堂伽藍堂　食哉不食あんと上人再建
焼香陀如来の尊像　空腹ひ甚五郎造立
左り前の身陀如来　はすらん國より傳来

當寺ハ年気ふりて口ぬけるゝ山もなく金乏神の社を顕れ上ニ
祀つて氣後悪置二季にわり後捨悪積ると沢是を後の祀ニ
本堂ハ根接茶ふれ出荒大破ニ及びさいとん自力ニ及びかたく
釈數一門ちかい拭捨當座の当座も身代の大完ニなる死
り孫焼石の氷息ゐさ元の本阿弥陀佛となる出現かり條

らん亭ニ便の掾ニ腰をかけても世間ハ鬼門八方ふさがり山門
の工面も出来ず是非なく金山ニ登り借銭の淵ニ落て浮む
瀬なし貧乏性人則と書あり　雑物便不足あり

略縁起　法人けちやんの為ニ書るも

抑當山の開基ハ律儀一編性人子孫の為ニ数年稼ぎ貯め
む志ニ嗇く其若衆後ぎ前色の物んども手振ねだ
とゝ古今の衣裳ふど染めとて只金銀の積を重ねて生涯獨で
難波小村を根城に身上の山を築積りて凡間に七百両の有
當分逆立しても支ゆるに法華宝前を建立しめて一代ゆかし
今の世人となりてハ地面ニ家屋の大地を質ニ入しかふその

不取締のあげ鎗

三損の身と

性得大酒の筆

親乃撥

金乃撥

分散二足三門額

馬鹿遊蕩敷
嗜所常極欲
多交育結角

[illegible]

南無山仕損支　此の山のさづまに不ひろり本金ハ損ぜ生ひ
仕損支ハ備後の国ふりの妻手乳ハ一文ハ多代城の
[illegible]
なり手乳の一文ハ[illegible]備と[illegible]法人と[illegible]
乳備とハ人[illegible]備の山門[illegible]
[illegible]
合力して[illegible]限と戦ひ手乳備のハ[illegible]

なくなりしいん

貪欲山強慾持　中殘道より入る等要乃の迷所なり

本地銭程光聞陀如来　黄金佛　文番利欲和尚開基

非義非道妙應像　仏ハ[illegible]

思想菩薩

十一面観是恩

此の貪欲山強慾持ハ木食高大和尚の開基ハ[illegible]
この中迷も地乃ぬ[illegible]
山ハ[illegible]

不可説とゝひ者は手四無法法四の相代表附邑の小機関は
三角不二と事と角形と角形と角形と角形と角形と角形と角形と
結び世間ゝの堂塔妙蘭義寺ゝ
抑貴山は等要道中一の迷所にして千地は大の示し給ふ
止りて殺生禁断。慈悲の海深く面の門雲く流れ不絶
いる義座ゝの廣大なる限りを尽くして金のゝ木仏方小堂
義世の中をこゝるを知るを知るこの金のゝ木といいるは極り相の乳
情光の乳豊び豊び相逆さぬ乳必ず栗。乳むづし木。摩尼
種々の乳生義。慈悲の頂を知るを色。義不慈の能爲るを
あり。抓る物を離さず抓るは慈悲情のあき知るゝ光仏不

之人法を推るは向ふ水不光出ゝ抓るは濁を栗食
ふと成收び取るを金爲るといふ者多一是より不人塚武仏
姫滅るの城跡取ると切通し義理不知身不知我
嶽小蔵を掩ひ金理邪乃を切び義深の石
樓敷庚敷返敷の柵ゝ慈の門不在ゝ義不從来義の
無物と安を金屋毛井の小の塚を渡を守殺奴有
統の豚鬼堂ゝ傷家ゝ殺奴佛教史有豚鬼と
ゝ不偶不今の人ゝ石堅金早塔ゝ金塔宝の要
の院是ゝ文貢ゝ味はゝ是と俊約の束法ゝ仏ゝ
番紙ゝ金成海ゝ義者ゝ限と思ふは大ゝ

利慾の迷所
名門
慾ごうの木
偽賢人社
よくの川
よくの雀

黄金の山
古銭場
利慾の道
むけんの鐘
金ぶか竜
中銭道

多だ多の人者きを不仰ども是を度利りを樹で独せども衣
食の炊ひあり実よりも妻よりも金を代るべ人ものを以年
可思ろか考き外と孔方大変も流るを不働の貧窮ち活
命紙楽むべと貪ることり紙金を独しづまとも音時人
事を除こと孤をるを十の字の下を左人押枉七ふ手ふ
稼ぎなけとば誰と金を貸るめたん是我常を流ところ服
時も後もて空腹ち已時咎ば業もいずくとなる人熟し
者ち紙ちぶきて名利と考人為るを拾ひ化の稼ることを成ても
元手なを不世紙渡る稼る紙を助る紙屑ひあり金の中
にありぶる金紙を不限らと貧無ることをいまを元縁ふき

元生人義し紙し我宗門を入を人を人今人涌出自世自在神通て
今紙欲る痴者人人間の暮久間市上年の疫渡ちりと
思者の一徒流ふく物ある説法意りを人稼ば貧を出行と
運び十六利細の業為欲る恨あく任を不意るりの人
働き者と紙者れを利益必為とり人

## 大山不當妙應

本當の山つぎ太平の時者れ云を不ち

貴山人利欲大師の囲碁を不して利国庶民の功徳ち為
山建立る志極市一流山業師分元金出法市立紀所
なり本地 不貴物産の業る係人骨折ぎを不金紙徳ふ人
強ふ人ことあり書云人

に千米銭多く賄へる下の價を以て衰金名にをとき所あり
智に悪る様縁あり枕飯食都右おおに欲の海に溺
俗る酒を醸出さき後に山く多く騒所無し川邪の迷ひなり
その道筋へハ進従輕落して高莫大の進みを遂り川福ひ
一足飛の出世あり此方彼方の屈曲を一駄いそ今の憂ふ刄村
山に登るものハ巧言令色を以て表に笑顔を飾り裏に
火の車の苦患あり發利の奴とこそ為らぬ淄強欲若き
難苦を經て此に出る仮諸者ハ常に慢を飾り嘘八百の法を
以ふ是を法に係るよふその此に経也柱の七本柱あり
合る鴻俗よふの橋あり此より雲の路第廣く奥あるき

捿し無山をはしとする法相護し○無量寿の玉 猿森より仏葉 ○ [illegible]
総滝の旗○大面の仮面 ○ 縫物
御の出たり○將敵子筆根の表を於て馬に乗る絵巻物
手引のすさなり 山の奥行止ありに七面貴あり縫る幕け下
令ふ殿達立ちの擁摩壇に修法に用ひし誘情あり
おすの所出て催するも無料とあるとの人

## 筭要道金銀都會の湊

此の所ハ江民とも經濟肯一の繁花の地にて所撰殊に多く
又諸方二層ハおしく群集なり大橋町元町今很出入倆仕
入町小道町その外大家小家小商人ともに種々の町なり入口

身臺の迷所

滝雲

逢身八苦
不逢狂乱
障の口説
見會の番頭
合せる氣半
意張山の飽の畫
傘の夜の歩行
下手の懲性
片々の落顔

青樓全盛の櫻見図　二[illegible]堤の中央[illegible]門の中[illegible]

有頂天神社

通ふ神　[illegible]

太夫松

縁とつなぐ比より苦海の中に育ち[illegible]の松に[illegible]て
大心中といふ子を持る数につゞき虚の川の水と流るゝ身ありて客を
[illegible]むる柳か里[illegible]の水泡と消ゆる客に[illegible]多き世と[illegible]
手[illegible]の手[illegible]に及ばず[illegible]て嬉しき身も[illegible]
[illegible]も後朝もまたの[illegible]風流[illegible]小舟[illegible]
不便に思はるゝ傾城は[illegible]虚の川に[illegible]
身代を[illegible]の蓮根より由[illegible]く穴をあけ太平の焼数のぬく

山の神の祠

遊蕩胴より出て勤[illegible]の別家[illegible]院とする[illegible]を傾け
城を傾け家を傾け身を失ふ男に傾城の名ありといふ[illegible]女
の客に媚て恵をのぞむは渡世にせん[illegible]の事なり
妻皆同癡嫉妬坂の真中にありて口八丁手八丁にしてあると
いふ相傳同加[illegible]門情女房[illegible]七去悪徳にて
女房と呼び竃将軍と申[illegible]の豪傑にて思ひ[illegible]
小身の城を攫へ朝夕に[illegible]の[illegible]
[illegible]家軍配を[illegible]大酒にあるものゝ古戦[illegible]
[illegible]向腹に[illegible]の筆をうんせ[illegible]不理[illegible]に[illegible]を[illegible]
亭主を小児のごとくに扱ひ軍[illegible]指揮して[illegible]

[illegible]

化を嫌ひ義を思ひ是真実不変義を不足を云て弱漫を
事とし人この神の慈悲を尚び忽ち罰に蒙るかゝる
なる有り小山の神のふまきこゝろずうの神もいふ

内儀清浄の屋代　妻皆道に在りこの所神様に家の倹約
ありて慎み深く丈夫天地の教ひ常に心に教をゆく法華経
法つとめ人ども面々の家業に別して経済の業を治めふ子孫
の為に子孫の出産育を家内安く教へ養なる少に子の孝実
ふく教て後孝出産法の内儀善神と中に清浄の
屋代ゆて家内安全をちりのふとこ

逢愁街道は後悔道の続きなり常に旅人偶然とこの道に迷ふ
係る迷所あり身を知る者は愛に行ると獨を慎む孤不なり
逢愁街道は事不幸の人禍福とも迅風のめぐ登り坂の急
ち下り坂に成る有為変の石筋ゆそのも大形に書て乗て
居ると知は後悔を小る所あり　御指先の杖とつて先に
立道連もなくとつふ

南無三方荒神の社　この社に百日の流法あり敬屋一日で種色と
なるこの所の屋をすゝめる四所なり。所の家作のまゝ何千年も
間に合ある皆後悔を小なり
勘堂難澁さん寺よの一北仏上の千手観音　虱級の守あり

猶お父母祖母の恩をも忘れけれ遊んで暮らすもあらず祖ひ
鼻欠地蔵堂　若水の者ねる放蕩癒毒れこの鼻欠の若縁となる
愚転堂　夜あけ大潤に浸し散財令入でしるれ米から落めに不易
交る所痛痒老よせばろい門ごとに後悔の迷訴
此辺すべて貪欲の金銭を貯へ光元日小大晦日の参る毎月
賄自小わり店賃の出そろ小ても風俗かえて擲と嘆る室
例ならへお隣ありと云ふ爺の山操御ぼん咄ねあるトの
古おを車お考小泣きをする一寸先い富貴を流向小水小世を渡り
候よ僕の門の流光陰の矢よりも速く往来三方の果小至ま
ゆく家財淺帰うふる又く論る元悪風なり児事捧で

其の道に入るべし
皆野一心事　おけの細なるにわ我が宿天神を迁し祀る会参
楽寺境内清く一切の天辰なり家の人樂の谷を倒る古
りの水くんぞ流を昔からもなきたすぐ氣樂にして福縁
ぞ安樂の道すなわり　ねんなき岩あり
道樂事五重の寶塔　無分別性人造立
出世の為にみるすねらえぞ寧浮世欲変わりて呑る事あらば
この桐の木を以て送り年中貧乏の基あるりして上ケ下ケ
世話しき放蕩なり自ら嘆じて云一件入物ハ一件入地記
協珠小鍛協珠掛でも追付あしとやまて乞食仲間小落る

一生の得ありと擬賢人の心ふかくこれを門に入れ合掌して拝つ
ゆゑ敬しく言葉ふかく焼ひ不揚ゑ人の出ざるひ見も
換者の偽法ゆゑ性愛あれ貪ることを嗜く仕事ゲ心極の
体恵火の車の苦患なり陸地人亜る祖先もありと云
借ゲ大名人　此神ハ北義芽のめさ新ゆゑ比流つ新こ
偽るゲ完新逆ゑ逆ゑ木まる平張まつと居るり大名神
不居言えこ益ち紙つくふ偽偽の云ひけふ法くて切今の
逆海名北ハあれ北義ふ引智編魔大至のめくたで
ちるゆうふ思ふ身体なり
死角の峰　親分心底法不偽ぬハ換者亡命の四北逆るゲ
一の義なのうん安芸ゑ　経逆蓮ゑ　換れ紙ふ
偽合くう法雑物の面貴の形ふ編ゆ三一ッ益○一ッ竈
○猫の梳蛇貝　あんまゑゲ併の名居ふ○古墓ゆ法ゑのけ
ホなり

金澤山福禄延寿隠　当山ハ正亜正峰の表面なる
道ゆて家の山安楽の教とふ法方合根の男ゆて堅
い身代ゑ云ふ昊場ゑ白堅造り林とあゑ貴合れとあ
変ゑるく内ゑて貝出滝ふハ出世観法ゆふ界貴第ハ
門あハ福をむうくく波風ゑぬ初まゑ義第く
祝ゑ霊山なり

精おのれ又でも何孤老へでも光陰の第隣に和の早れ
て云ばと和まて変るまゝ嫁ゞ姑ふかう息ゞ親父と子ゝ
一瞬間ゆて千里の旅も帰るとれあり人間一生の道中ハ故
知なり〜笑くゝて是の達者なれ吾道づまゝ楽ゞと求め
迷所の横路へ這入ゞ正路の路を去ゞ小宝の山安楽の
都ふいろはべゝゆゝ小児輩怠りまふか
○是ふかりまてる迷所ゝ変んふ〜ゝ去ゝ〜ゝ
出板いろゝい

昭30 3.14

東都 一筆菴英泉画作

御免 御高札之寫 半紙本 中本 全一冊

壬從日用條目 附火用慎 四民日用の心得を在文にて記なるとバ
民家日用條目 各一 童蒙教ふ諭一歩一歩別ゝ一のまゝと
学ぶ者を先ゝ手ゝ教に勧て有事ゝ〜下

溪齋英泉翁筆
繪本英勇鑑 全二

其ゝ初ゝ為ゝ国ゝ家ゝ尽ゝ世ゝ乱ゝ忘ゝ
ざる勤懲の一端ゝ人ゝ為ゝ事ゝ

哥川國直筆
繪本武者袋 全一

古今諸書ゝ出ゝ英雄豪傑ゝ画ゝ
其傍ゝ略ゝ伝ゝ記ゝ中ゝ
年月時日ゝ正直ゝ教の御草紙ゝ可ゝ

諸職必用 紋切形 溪齋英泉筆録 全一冊

諸職ゝ名ゝ石ゝ州ゝ色ゝ重宝ゝ
紋図ゝ地紋ゝ書ゝ
冊ゝ八ゝ重ゝ稲ゝ字ゝ印ゝ本ゝ諸ゝ家ゝ
牡丹ゝ八ゝ重ゝ花ゝ紙ゝ冊ゝ
昌家ゝ

百人一首女訓抄 山田常典大校 全一冊

人間一生一筆斧主人戯作
獨楽内 溪齋英泉畫
善悪道中記 全
善悪道中記第二編
同 迷所圖會 全
善悪道中記第三編
同 迷所一覽 全
一雲齋國芳畫
同 四編五編
前北齋卍老人筆
卍翁 美畫 全一冊
早割 十露盤誓古鑑 折本 一冊

相撲 改正金剛傳 立川馬琴作 歌川豊國畫 全一冊
相撲 關取名勝圖會 右同作 右同畫 全一冊
力競表裏 相撲取組圖會 右同作 右同畫 全一冊
實語教童子教餘師 全一冊
諸職往来 御江戸方角 各一冊

再刻 銀座四町目
東都書肆 頂恩堂 本屋又助壽梓